

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●マカフィーが2014年の10大セキュリティ事件ランキングを発表、1位はベネッセの顧客情報流出

<http://www.mcafee.com/jp/about/news/2014/q4/20141112-02.aspx>
<http://japan.zdnet.com/security/analysis/35056459/>
<http://www.itmedia.co.jp/pcuser/articles/1411/12/news151.html>



このニュースをザックリ言うと…

- 11月12日、大手セキュリティベンダーのマカフィー社が日本の経営層や情報システム部門などのビジネスパーソン1,036人を対象に実施した「2014年のセキュリティ事件に関する意識調査」の結果を発表しました。

- 各種セキュリティ事件のうち、回答者における認知度が最も高かったのは「ベネッセの顧客情報流出事件」の77.7%、次いで「振り込み詐欺・迷惑電話による被害」が59.0%、「LINEの乗っ取り被害」が56.2%、等となっています。

AUS便りからの所感等

- 今年もセキュリティ関連で大きなインパクトを与えた事件が多く発生していますが、なかでも、第1位のベネッセの情報漏えい事件は2,260万件以上の個人情報流出したことなどから認知度が高かったようです。

- 外部からの攻撃、内部からの流出、あらゆるセキュリティの問題一つ一つに煩わされる手間を可能な限り軽減していくためにも、アンチウイルスやUTMをはじめとするセキュリティソリューションの導入は、(それだけで全てが解決するわけではありませんが) 今後ますます必須となると言えるでしょう。

The screenshot shows the McAfee for Business website with a search bar and navigation menu. The main content area displays a news article with the following text:

日本を対象に実施「2014年のセキュリティ事件に関する意識調査」マカフィー、2014年の10大セキュリティ事件ランキングを発表

セキュリティ被害の負の連鎖の断絶は、職場・家庭でのセキュリティに対する意識・モラルの向上から

2014年11月12日

インテルセキュリティの中核を担うMcAfee, Inc. (本社:米国カリフォルニア州、プレジデント:マイケル・デシーザー)の日本法人 マカフィー株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:ジャンクランド・ブライド、以下マカフィー)は、日本国内の経営層や情報システム部門などのビジネスパーソンを対象に「2014年のセキュリティ事件に関する意識調査」を実施し、その結果を基にした2014年の10大セキュリティ事件を発表しました。

今年も、個人を狙った広域的なセキュリティの脅威に加え、企業の情報漏えいや情報システムへの大規模な不正アクセスなど、個人の生活だけでなく、企業の事業活動に多大な影響を及ぼすセキュリティの重大事件が発生した年といえます。これを契機、マカフィーでは、企業のセキュリティに対する意識や課題の把握を目的に、「2014年のセキュリティ事件に関する意識調査」を実施しました。

調査結果を基にランク付けした2014年の10大セキュリティ事件は以下の通りです。なお、当ランキングは、2014年に発生したセキュリティ事業に対する認知度(複数回答)を基にランク付けしています。

順位	セキュリティ事件 (時期)	認知度
1	ベネッセ、顧客情報が大量流出 (7月)	77.7%
2	振り込み詐欺/迷惑電話による被害 (1年を通して)	59.0%
3	LINEの乗っ取り被害 (1年を通して)	56.2%
4	大手銀行のネットバンキングを狙う不正送金ウィルス (5月)	39.2%
5	大手金融機関やクレジットカード会社をかたるフィッシング (1年を通して)	37.5%
6	iCloudで海外セレブの写真やセルフポートレートが流出 (9月)	34.4%
7	JALマイレージwebサイトに不正アクセス (2月)	33.4%
8	JR東日本「Suicaポイントクラブ」に不正ログイン (3月)	27.1%
9	Flash Playerに脆弱性 (9月)	26.2%
10	OpenSSLの脆弱性 (Heartbleed) (4月)	25.4%

●ソフォスがSPAM送信国ワーストランキング発表、日本も11位にランクイン

<http://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1411/05/news072.html>
<http://www.sophos.com/ja-ip/press-office/press-releases/2014/11/ns-dirty-dozen-q3-2014.aspx>



このニュースをザックリ言うと…

- 11月5日(日本時間)、セキュリティベンダーのソフォス社は、四半期毎に調査している「SPAM送信国ワースト12」の7~9月度の結果を発表しました。

- 結果については、1位がアメリカでSPAM量全体の11.5%を占めている状況、次いで中国が9.1%、フランスが6.4%等となっており、日本も3.0%で11位に入っています。

AUS便りからの所感等

- 今日では、SPAMの送信は業者等自身よりもマルウェアに感染したPCから行われることが多く、この調査結果も、どれだけ多くのコンピュータがSPAMを配信するマルウェアに感染している可能性があるかについての注意喚起を目的としているとのことです。

- マルウェアに感染し、SPAMメールやさらなるマルウェアを拡散するメールの送信者になるということは、対外的に加害者となることでもあるため、PCが被害者のみならずそういった加害者になることのないよう、アンチウイルスによるPCの防御、またUTMによるマルウェアの侵入と不正なメールの外部への送信を食い止めることが重要です。

SOPHOS		SPAMPIONSHIP				LEAGUE			
SPAM-RELAYING "DIRTY DOZEN" COUNTRIES BY VOLUME									
Q3 - July - August - September 2014									
Pos	Country	Spam volume	Q4	Q1	Q2	Q3			
1	United States	11.5%	1	1	1	1			
2	China	9.1%	2	5	3	2			
3	France	6.4%	-	8	2	3			
4	Russia	6.3%	3	3	5	4			
5	Italy	5.5%	8	4	4	5			
6	South Korea	4.9%	9	10	7	6			
7	Vietnam	4.6%	12	-	10	7			
8	Germany	3.6%	-	6	6	8			
9	Ukraine	3.2%	5	11	8	9			
10	Argentina	3.1%	-	9	12	10			
11	Japan	3.0%	-	7	11	11			
12	Spain	2.6%	-	2	9	12			

Source: SophosLabs

●アジアの高級ホテル宿泊者を狙った「Darkhotel」攻撃、日本の被害が最多

http://internet.watch.impress.co.jp/docs/news/20141112_675785.html
<http://blog.kaspersky.co.jp/darkhotel-apt/5392/>



このニュースをザックリ言うと…

- 11月11日、セキュリティベンダーのカスペルスキー社は、アジアの高級ホテルで無線LANを利用する宿泊客に対しマルウェアを感染させる攻撃が丸7年行われていると警告しました。

- 同社が「Darkhotel」と名付けたこの攻撃では、無線LANに接続したユーザに対し、ホテルのネットワーク上で活動するポットが「Googleツールバー」や「Flash Player」等のアップデートに偽装した不正なマルウェアをインストールさせ、ユーザのPCから機密情報を詐取していたとされており、この攻撃によりマルウェアに感染したPCが最も多かったのは日本で、次いで台湾、中国、ロシア、韓国となっています。

AUS便りからの所感等

- 同社によれば、攻撃者は攻撃が検知されにくいよう、感染したマルウェアは実際の活動開始まで180日間潜伏する等といった様々な手法をとっていた模様です。

- ソフトウェアのアップデートにあたっては、なるべく公式サイト等の安全な配布元にアクセスすること、出先等ではなく社内ネットワーク上から行うこと、そして不審な通知に従ってアップデートのダウンロードをしないことが大事です。

- この他、公衆無線LANにはその性質上、アクセスポイントを共有する他者から通信を盗聴される可能性もありますので、そのリスクを考慮するならば、自前でモバイルインターネット接続を行う、VPNによる社内ネットワーク・UTMを経由してインターネットに接続する、といった対策も検討に値するでしょう。

The screenshot shows a news article from Internet Watch. The title is 'アジアの高級ホテル宿泊者を狙った「Darkhotel」攻撃、日本の被害が最多'. The article text includes: 'Kaspersky Labsは11日、アジアの高級ホテルのネットワークを標的として、宿泊者のPCにマルウェアを感染させる攻撃が長年行われていたことを確認したとして、注意を呼び掛けた。' and 'Kasperskyが「Darkhotel」と呼ぶこの攻撃では、アジアの高級ホテルに宿泊する企業幹部や政府関係者などが狙われた。' It also mentions that the attack involved installing malware that mimicked updates for Google Toolbar and Flash Player. The article is dated 2014/11/12 20:34.